

第1回放課後子どもプラン合同研修会について

1 日時及び場所 平成19年11月16日(金)午前10時から午後3時まで

2 場所 県庁 議会棟404・405号会議室

3 研修内容

(1) 行政説明 「放課後子どもプランの取組状況について」(30分) こども支援課

・放課後子どもプランの概要及び取組状況について

・「放課後子ども教室実施状況調査結果」「放課後子ども教室未実施状況調査結果」について

(2) 講義 「パートナーシップの絆を結ぶ」(90分)

全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 興梠 寛

・他者や社会に貢献する喜びを体験的に知る。

・多様な人々との出会いをとおして、コミュニケーション能力を育む。

・地域社会の人々との多様なふれあいを通して、“生きた学問”が学べ、多様な体験学習などを
通して生きる力を育む。

(3) 事例検証 「放課後NPO『After School』!!」(60分)

～『地域・家庭・学校』三位一体で『安全で豊かな放課後を!!』～(ビデオ)

全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 興梠 寛

・放課後NPO『After School』が学校や公共施設を利用して行う体験プログラムの紹介

(4) 意見交換会及び意見発表(60分)

テーマ 「これからの放課後の居場所づくりに求められるもの～人材・場所・取組内容～」

4 参加者数 157名

5 意見交換会における主な意見

<制度について>

・学童クラブと子ども教室のすみ分けが難しい。

・まずは、働く親、共働き家庭のことを考えて放課後児童クラブの充実を図るべきである。

・子ども教室を毎日行っているが、積極的な体験の場というより、子どもの安全の場であり、共働きの支援が主体となっている。

<子どもの視点に立った居場所づくり>

・「時間内、面倒をみてもらえばよい。」という親の考えは、本当に子どもの目線からのものなのか。

・人材を子どもの目線からえらぶのか、それとも大人の目線から選ぶのか。

<安全管理について>

・下校時の安全を確保する必要がある。

<その他>

・預かる側から見ると、ただ見ているだけでは子どものためにはならないと感じる。

・子どもに何かを伝えられないかという思いがある。地域で子どもを育てていきたいと思っている。



6 実施後のアンケート結果

(1) 回答者数 83人

内訳：行政（子ども教室）21人、子ども教室スタッフ21人、行政（児童クラブ）9人
児童クラブ指導員13人、その他・不明19人

(2) アンケート結果

研修会で取り上げてほしい内容（選択式、複数回答）

・様々な地域（他県）の“放課後子ども教室等”の取組事例について	41人
・県内市町村の“放課後子ども教室等”の取組事例について	33人
・子どもへの接し方や叱り方などについて	25人
・活動プログラムの立案・作成について	24人
・地域人材の確保等について	23人
・子どもの安全管理と防犯などの安全対策について	20人
・遊びや体験活動の技術について	18人
・障害のある児童や配慮を要する児童についての理解や対応について	18人
・子育てを取り巻く現状などについて	17人
・放課後対策に関する概論について	15人
・コミュニケーションや対人関係スキルについて	14人
・青少年を取り巻く現状や青少年の心理などについて	13人
・けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて	13人
・いじめの発見、対応について	11人
・事務処理、経理・労務管理などについて	8人
・広報等の文書作成、プレゼンテーションなどについて	7人

少数回答は省略

放課後の居場所づくり事業を進める上での課題（選択式、複数回答可）

・スタッフの確保	21人
・放課後児童クラブと放課後子ども教室の類似性	10人
・予算の確保	8人
・学校の協力・支援	8人
・保護者の理解	7人
・場所の確保	6人

市町村において、今後放課後の居場所づくり事業をどのように進める予定か
（行政関係者のみ回答）

・児童クラブを充実しつつ、子ども教室を試験的に実施し、効果を見極める	10人
・子ども教室を順次導入しつつ、児童クラブと一体的・連携した取組を検討	8人
・現在実施している児童クラブの充実に努める（子ども教室は当面実施せず）	7人
・児童クラブを継続しながら、子ども教室を順次各学校へ導入	6人

今日の研修会について

< 日程について >

- ・情報交換の時間が短すぎる。
- ・日程は良いのですが、場所が遠すぎます。塩尻の生涯学習センターで開催してください。
- ・来年に向けての取組を考えると、もっと早い時期に開催してほしい。
- ・講師の先生のお話をゆっくりと聞くことができ良かった。

< 講義「パートナーシップの絆を結ぶ」について >

- ・経験をもとに、ユーモアを交えた内容は、聴いていて飽きることがなく、とても楽しかった。
- ・ネットワークの活動は参考になりますが、「都会には人が多くていいなあ」とも思いました。
- ・非常に興味深く聴きました。中心となるコーディネーターの必要性を感じました。
- ・ボランティアの最先端を教えてくださいました。ただ、これを地元でどう取組むかに悩みます。

< 講義「放課後NPO『After School !!』」について >

- ・世田谷区及び都市でのあり方がわかった。自分たちの住む地域を見直していきたいと感じた。
- ・人と人との出会いの場をいつも耕していることが青少年健全育成の基本となり、確かに大切だ。
- ・遊びのメニューやプログラムをつくるヒントをいただいた。
- ・行政が携わるのではなく、地域住民・保護者が一体となって進める形が一番良いと感じた。

< 意見交換会のテーマについて >

- ・問題解決にはならなかったが、交流ができて良かった。
- ・もう少し絞られていた方がよい。
- ・具体的な取組を紹介していただいてありがたかった。
- ・それぞれの市町村で現状が異なるので、同じような状況にあるところと話をしたかった。

< 意見交換会の検討及び発表時間の配分等について >

- ・時間が少なかった。生の情報を得られる良い機会なのに、すぐに終わってしまい残念だった。
- ・時間が少なすぎる。今後、このような情報交換を担当者別に分けて行ってほしい。

第2回放課後子どもプラン合同研修会について

- 1 日 時 平成20年2月6日(水) 10:00～16:00
- 2 場 所 長野県総合教育センター(塩尻市) 講堂
- 3 研修内容
 - (1) 応急手当講習会「子どものケガ・急病時の応急手当・対処法」(講義、実技)(2時間)
講師:松本広域消防局 広丘消防署
 - (2) 事例発表(1時間20分)
事例発表1 「放課後子ども教室と放課後児童クラブの連携事例」
発表者:高森町教育委員会
事例発表2 「地域住民の協力による放課後子どもプランの取組事例」
発表者:小布施町教育委員会
 - (3) 情報交換会、発表(1時間20分)
テーマ「子どもの居場所づくり～現場での課題～」
 - (4) 参加者数 102名
- 4 研修状況
 - (1) 応急手当講習会
最初の1時間は心肺蘇生法とあAEDの使用及び止血その他応急手当に関する講義を受講し
後半1時間は2班に分かれて講義の内容について実技講習を実施した。
 - (2) 事例発表
高森町及び小布施町で実践されている放課後子どもプラン(子ども教室、放課後児童クラブ)の実践例について、事業の概要、実施の経過、課題等について担当者の方から説明をいただいた。
その後の質問応答では多くの質疑を受け、理解を深めた。
 - (3) 意見交換会・発表
テーマ「子どもの居場所づくり～現場での課題～」について、10グループに別れ、それぞれの立場から、各学校、地域における実情等について活発な意見交換が行われた。
その後各グループ代表による意見内容の発表が行われた。。
- 5 意見交換会における主な意見
 - <制度について>
 - ・それぞれの趣旨が異なるので、連携が難しい。
 - ・同じ場所で両事業を行うと、子どもに違いがないため、管理が煩雑になってしまう。
 - ・役所の部署間の調整が困難である。
 - <子どもの視点に立った居場所づくりについて>
 - ・児童クラブは子どもが嫌がっていても、親の都合で仕方なく利用している児童もいる。
 - ・どうしても保護者の要望に沿った運営になってしまい、子どもの視点が欠けてしまう。
 - ・親からは色々な要望があるが、子どもに強制はできない。
 - <安全管理について>
 - ・完全下校後も教室を利用した場合、責任の所在が不明確になる。
 - ・子ども教室を6時まで実施した場合、帰宅時の安全確保が課題
 - ・子ども教室の安全管理マニュアルがない(地域子ども教室時のものを修正し利用)
 - <その他>
 - ・高学年と低学年で遊びが異なるので、縦の関係を作れるメニューづくりが大変である。
 - ・最近個性の強い子が多く、トラブルも絶えない。
 - ・いずれにしろ学校との意思疎通が重要だと思う。



6 実施後のアンケートの結果

(1) 回答者数 46人

内訳：行政（子ども教室）9人、子ども教室スタッフ8人、行政（児童クラブ）6人
児童クラブ指導員16人、その他・不明7人

(2) アンケート結果

研修会で取り上げてほしい内容（選択式、複数回答）

・様々な地域の放課後子ども教室等の取組事例について	20人
・子どもへの接し方やしかり方について	19人
・障害のある児童や配慮を要する児童についての理解や対応について	15人
・遊びや体験活動の技術について	13人
・県内市町村の放課後子ども教室等の取組事例	11人
・地域人材の確保等について	11人
・子育てを取り巻く現状などについて	10人
・青少年を取り巻く現状や青少年の心理などについて	8人
・活動プログラムの立案・作成について	8人
・いじめの発見、対応について	6人

回答の多かった上位10項目のみを掲載

放課後の居場所づくり事業を進める上での課題（選択式、複数回答可）

・スタッフの確保	6人
・場所の確保	5人
・学校の協力・支援	5人
・予算の確保	4人
・保護者の理解	3人
・放課後児童クラブと放課後子ども教室の類似性	2人

市町村において、今後放課後の居場所づくり事業をどのように進める予定か（行政関係者のみ回答）

・児童クラブを充実しつつ、子ども教室を試験的に実施し、効果を見極める	5人
・児童クラブを継続しながら、子ども教室を順次各学校へ導入	3人
・子ども教室を順次導入しつつ、児童クラブと一体的・連携した取組を検討	2人
・現在実施している児童クラブの充実に努める（子ども教室は当面実施せず）	1人

今日の研修会について

< 日程について >

- ・もう少し早い時期が良い。予算編成作業前だと参考になる。（6名）
- ・雪のない時期に実施してもらいたい。（2名）
- ・高森町と小布施町の事例発表は、具体的でわかりやすくよかった。

< 応急手当講習会について >

- ・説明がわかりやすく、大変参考になった。（6名）
- ・実習の時間をもっと多くして、多くの人を実習体験をできるようにしてほしい。（6名）
- ・以前受講していても忘れていたことも多いので、このような講習を定期的に受講したい。（4名）
- ・AEDの使い方がわかってよかった。（3名）
- ・制度や考え方が変わり、新しい内容の研修を受講できてよかった。（2名）

< 情報交換会について >

- ・もう少し時間に余裕があるとよかった。（14名）
- ・他地域の状況がわかり、とても参考になった。（8名）
- ・グループ毎にテーマを分けて話し合った方がよいのではないかと。（7名）
- ・意見交換の内容をまとめたものを参考に送っていただきたい。

< 事業における現場での課題について（現場スタッフ） >

- ・子どもの視点が欠けた施策となっている。（2名）
- ・多様な子どもたちへの対応が難しい。
- ・保護者とのコミュニケーションをとりにくい場合がある。
- ・子どもにとって一番安らぐ場所は家庭であるというのを理解してもらいたい。

< 放課後の居場所づくりにおいて、今後県に期待すること >

- ・統一した趣旨の事業を継続してほしい。
- ・児童クラブと子ども教室を一体的に実施している市町村の課題を教えてください。
- ・子ども教室は画期的な事業であるが、今一歩学校の扉が開かない。上から開けないと開かない。